

訪問看護師の 年収とキャリアのリアル 2026

現役訪問看護師170人アンケート／NsPace会員調査（2026年8月集計）



調査の概要と回答者の属性

このアンケートに答えてくださったのは、NsPace会員のみなさんです。全国の訪問看護師の平均ではない点を、はじめにお断りします。

調査名	訪問看護師の年収・キャリア実態調査 2026	項目	実績	注意点
調査対象	NsPace会員（訪問看護に従事する看護師等）	訪問看護の経験 5年以上	99件／170件 (58.2%)	経験者層が中心
調査方法	Webアンケート（NsPace会員ログイン必須）	年代（40代+50代）	88件／167件	20～30代は少数
回答数	170人	女性比率	136件／167件	男性は7人。人数が少ないため男女の比較はしていません
集計日	2026年8月			

3つの発見

年収を分けるのは、事業所の規模ではなく経験年数と勤務地だった

58.5%

経験10年以上で年収500万円以上。経験1～3年では4.8%。一方、事業所規模による差はほぼゼロ（10名未満・10名以上とも推計平均約471万円）

転職した時点では半数が報酬減。ただし現在の年収に前職差は残っていない

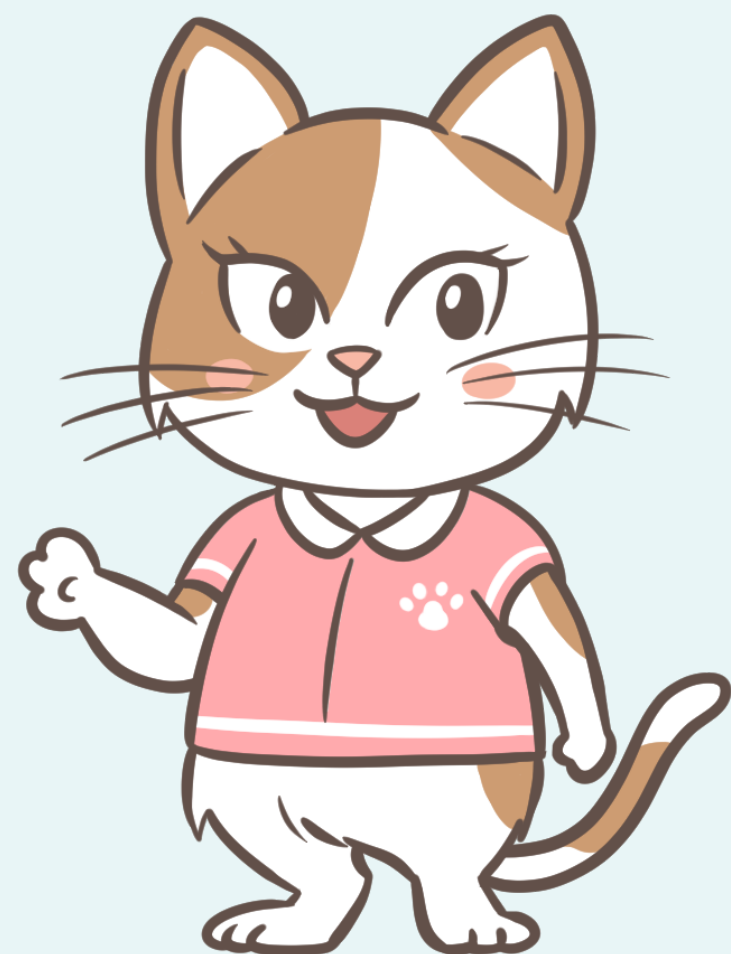
51.8%

病院からの転職に限ると65.1%。一方、現在の年収は病院出身 約481万円／クリニック出身 約469万円でほぼ同水準

転職前に重視されていた「給与」は、転職後に語られた理由では5番目だった

16.5%

当社の前回調査（転職検討中の看護師）では76.1%が「給与の高さ」を重視。実際に移った人の理由は働き方と生活が上位（P25）



年収の話は、 1枚の数字だけでは決まらない

前ページの3つの数字は、それぞれ別の章で背景を見ていきます。いくらもらっているのか（第1章）、転職したとき何が起きたのか（第2章）、そのうえで何を選んだのか（第3章）。順番に読むと、同じ数字の意味が変わってきます。

— 最後まで見てほしいニャ。

働き方の内訳

回答者の約8割が常勤（正職員）です。（n=170）

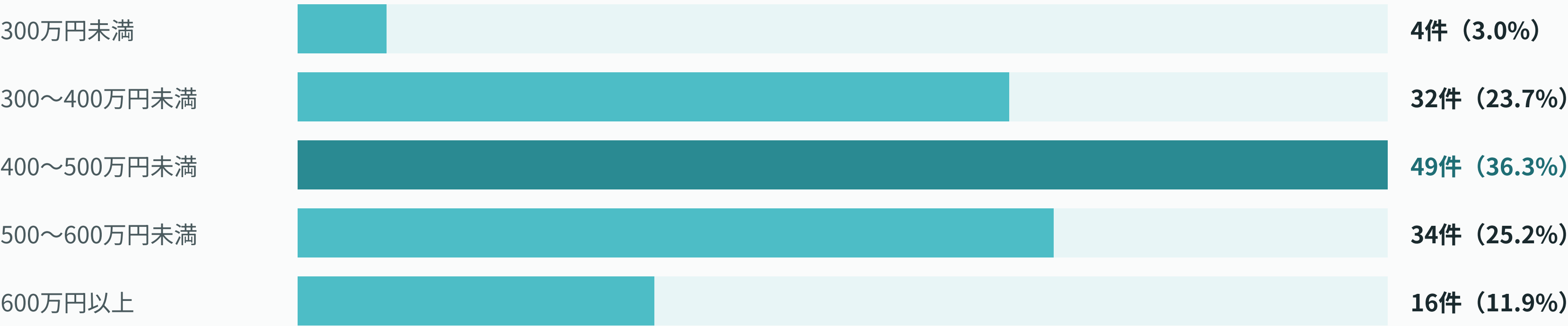


■ 常勤（135） ■ 非常勤（33） ■ 訪問件数制（2）

訪問件数制の方は2人と少ないため、このあとの年収の集計からは外しています。

常勤（正職員）の年収分布

400～500万円台が最も多く36.3%。500万円以上は37.0%を占めます。（n=135）

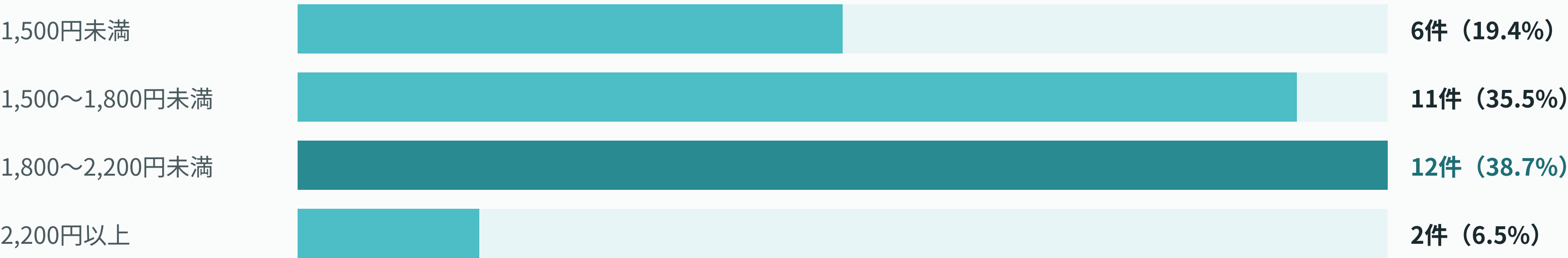


推計平均 約470万円

年収は選択式で聞いているため、それぞれの選択肢の真ん中の値（例：400～500万円未満なら450万円）を使って計算した、およその平均です。

非常勤（パート・アルバイト）の時給分布

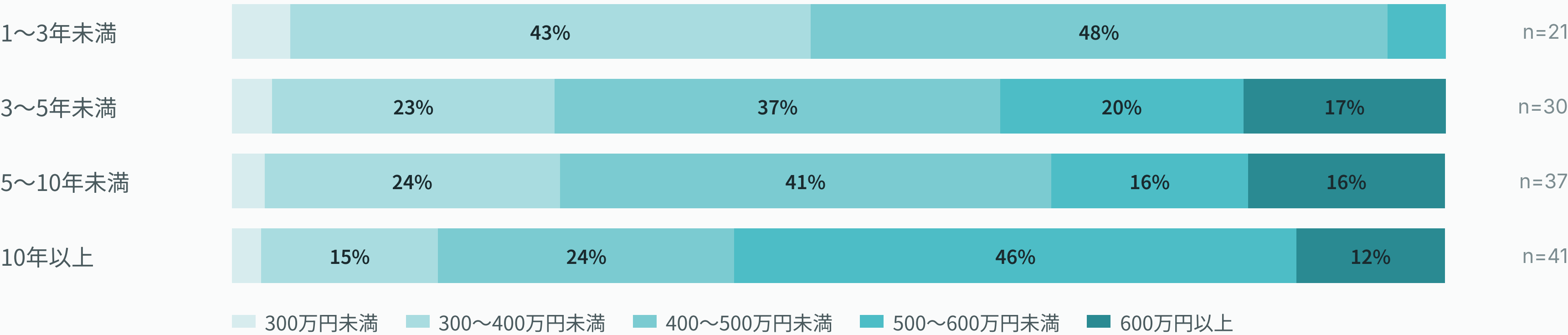
1,800～2,200円未満が38.7%で最多。（非常勤33件中、有効回答31件）



訪問件数制の方は2人と少ないため、集計から外しています。

経験年数を重ねるほど年収は上がる

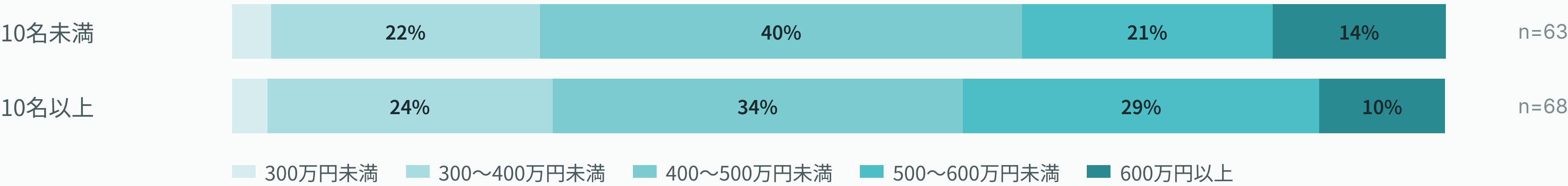
経験1～3年では500万円以上が4.8%にとどまりますが、10年以上では58.5%に達します。



経験1年未満の方は4人と少ないため、グラフには載せていません

事業所の規模では年収は変わらない

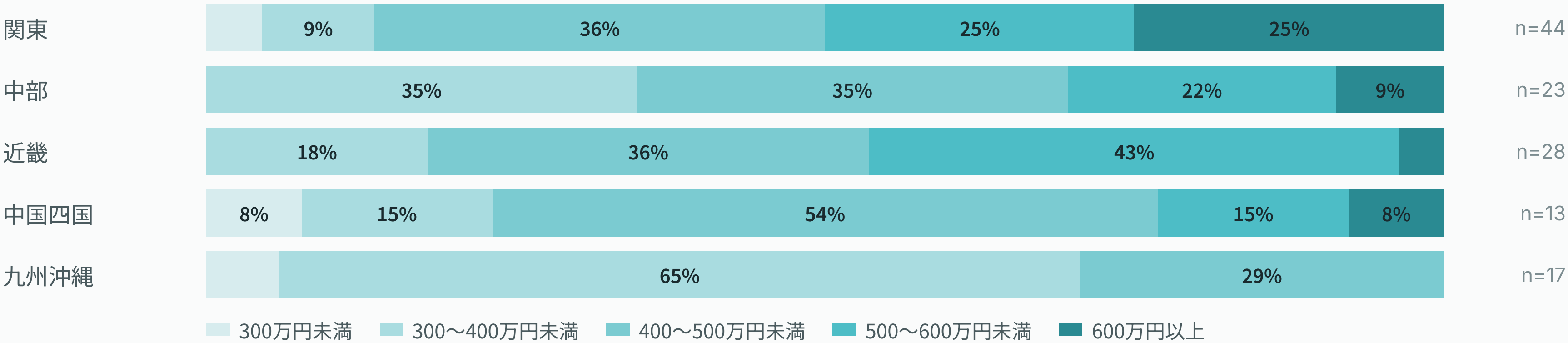
10名未満・10名以上のいずれも推計平均は約471万円で、ほとんど差がありません。規模の大小で年収を判断する必要はない、といえます。



推計平均 10名未満 約471万円（63人）／10名以上 約471万円（68人）

地域によって年収には差がある

関東が最も高く推計平均約508万円、九州沖縄は約375万円。規模と違い、地域の差ははっきり出ます。



推計平均は、関東 約508万円／中部 約440万円台／近畿 約470万円台／中国四国 約440万円台／九州沖縄 約375万円。北海道（6人）・東北（1人）は人数が少ないため、グラフには載せていません。都道府県ごとの集計は、いちばん多い県でも20人に満たないため行っていない。

管理者と看護師の差（参考値）

管理者は看護師より推計平均で約40万円高い水準です。ただし管理者の回答は21件のため、参考値としてご覧ください。

管理者

約507万円

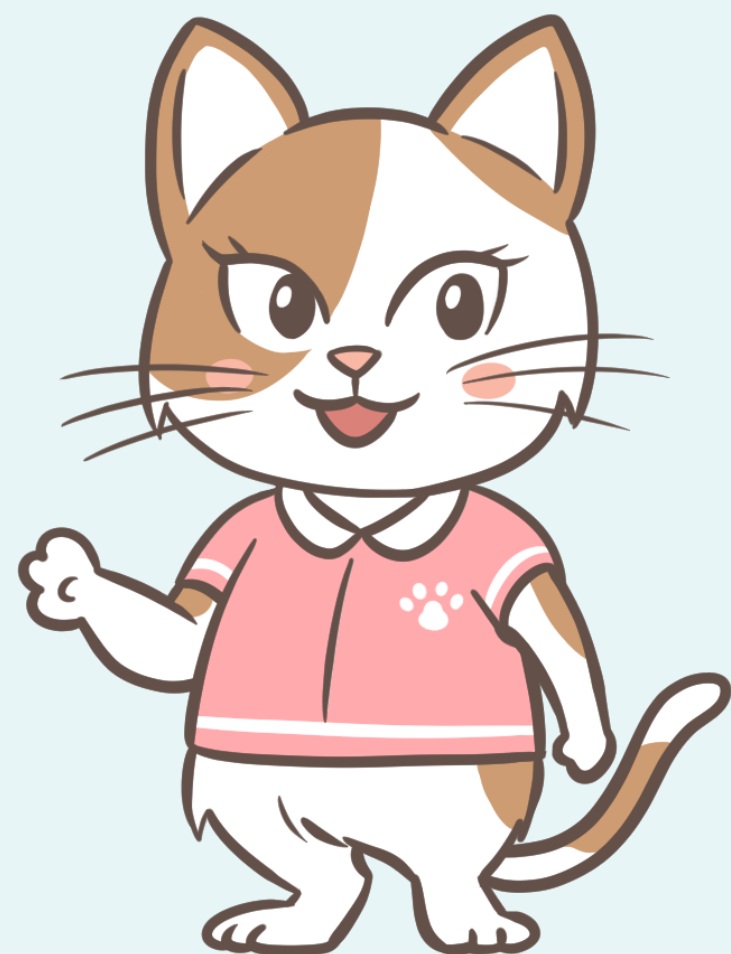
21人の回答 ※参考値

看護師

約465万円

99人の回答

経営者（2人）、訪問看護ステーション以外にお勤めの方は、いずれも10人未満のためグラフには載せていません



年収を分けるのは、事業所の 大きさではなく経験と勤務地

経験1～3年では500万円以上が4.8%ですが、10年以上では58.5%に達します。一方で事業所の規模による差はほとんどなく、10名未満も10名以上も推計平均は約471万円でした。地域の差ははっきり出ていて、関東は約508万円、九州沖縄は約375万円です。

— 規模が小さいからと避けなくていいニャ。

訪問看護師はどこから来ているのか

94.7%が他職場からの転職者で、その半数は病院出身です。(n=170)

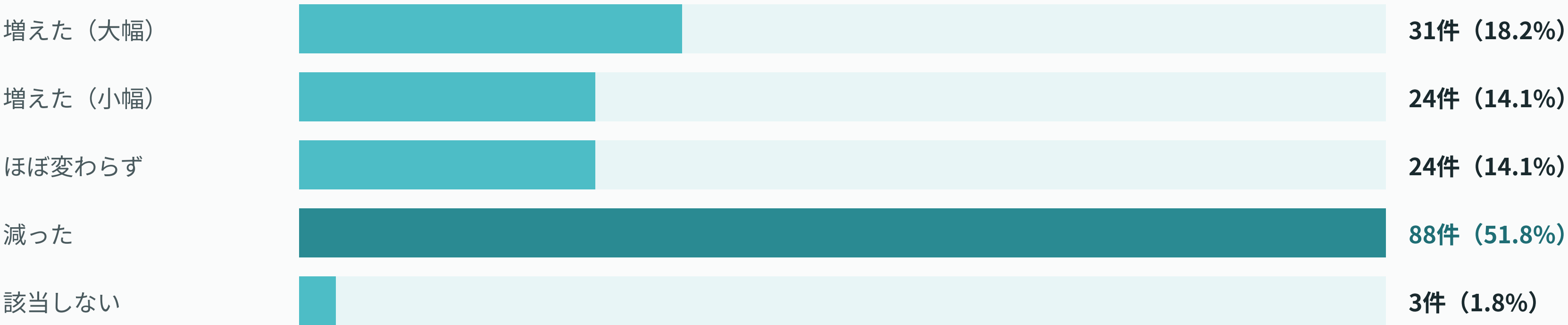


■ 病院（86） ■ クリニック・外来（20） ■ 別の訪問看護ST（36） ■ その他（24） ■ 該当しない（4）

「該当しない」は、看護職としての前職がない、または新卒で訪問看護に入職した回答者です。

転職直後は、半数が「報酬が減った」

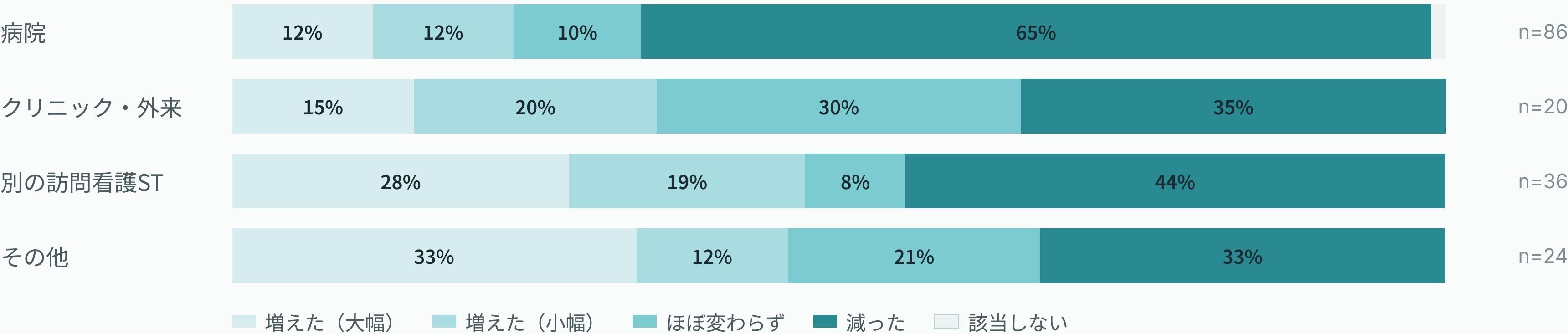
訪問看護に移った時点で報酬が減ったと答えた人は51.8%。これが本調査で最も大きな数字です。(n=170)



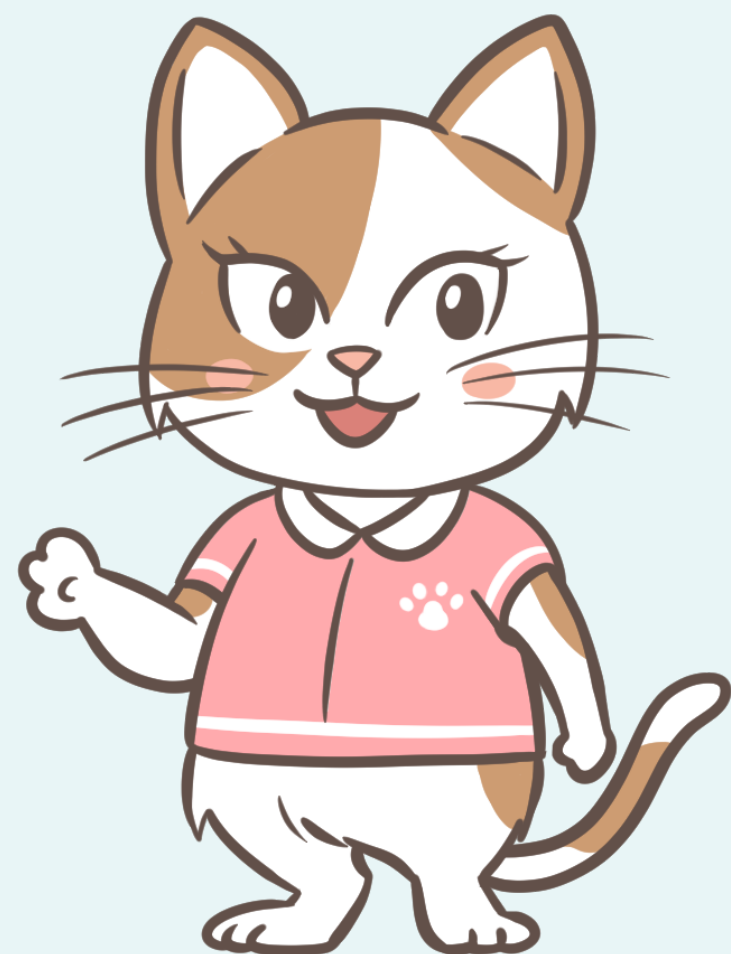
「増えた（大幅）」は、年収で50万円以上または時給で200円以上増えた場合です。「減った」はどれくらい減ったかを聞いていないため、下がった幅の大きさまではわかりません。

病院からの転職では、3人に2人が報酬減

病院出身では65.1%が「減った」と回答。一方でクリニック・外来からは35.0%にとどまり、前職によって大きく異なります。



「該当しない」（4人）は人数が少ないため、グラフには載せていません。病院では夜勤手当がついていた分、日勤中心の働き方に移ると差が出やすいと考えられます。



この数字は、損得の結論ではありません

訪問看護に移った時点で報酬が減ったと答えた人は51.8%。病院から移った人に限ると65.1%で、本調査で最も大きな数字です。ただしこれは転職した「その時点」の増減であって、いま受け取っている金額の話ではありません。何が起きているのかは、このあと2ページで見ていきます。

— ここで本を閉じないでほしいニャ。

経験を積んでから移っても、下がる人は半数いる

訪問看護の経験が1～3年の方では70.0%が「減った」と答えています。ただし経験10年以上の方でも51.0%。「経験を積んでから移れば下らない」とは言えません。



この差の読み方

訪問看護の経験が浅い方、つまり最近転職した方ほど「減った」と答える割合が高くなっています。考えられる理由は2つです。ひとつは、最近の転職のほうが実際に下がり幅が大きいということ。もうひとつは、時間が経つと当時いくら変わったかの記憶が薄れ、「ほぼ変わらず」と答えやすくなるということです。どちらなのかは、このアンケートではわかりません。ただ、経験を積んでから移った方でも約半数が「減った」と答えている点は変わりません。

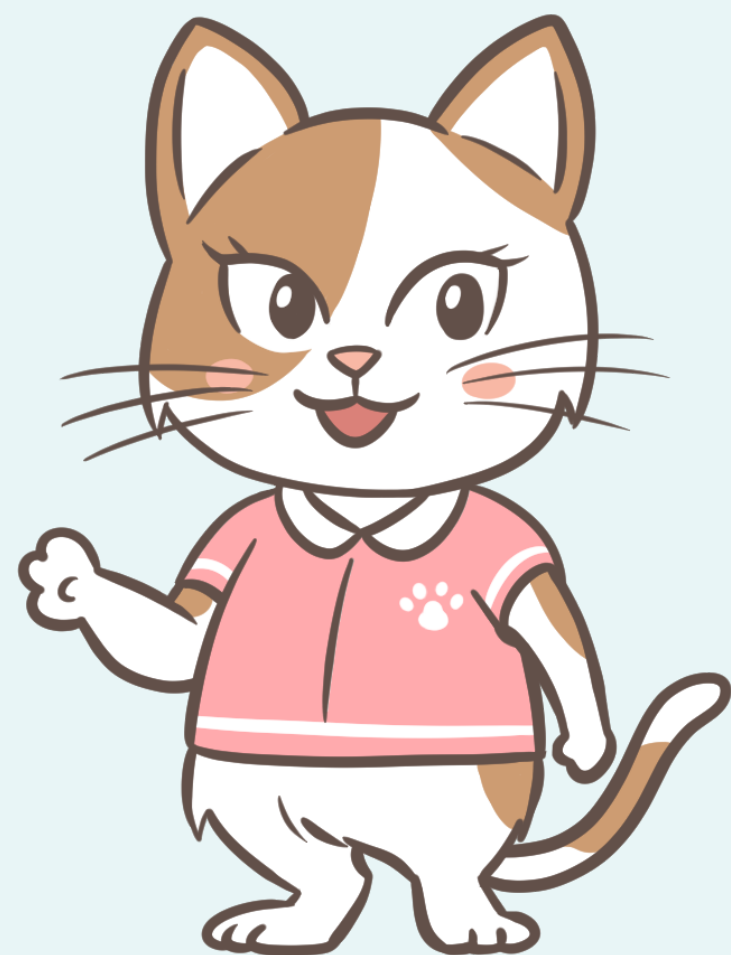
それぞれの経験年数のうち、「減った」と答えた方の割合です。経験年数は訪問看護での年数。経験1年未満の方は6人と少ないため、グラフには載せていません

ただし、現在の年収に前職による差はない

入職時に「減った」と答えた方の、いまの年収の推計平均は約447万円。さらに前の職場ごとにいまの年収を見ると、病院出身の方もクリニック出身の方も、ほとんど同じ水準です。

入職時に報酬がどう変わったか別・いまの年収 推計平均		前の職場別・いまの年収 推計平均	
増えた（大幅）	約492万円 n=26	病院	約481万円 n=72
増えた（小幅）	約503万円 n=19	クリニック・外来	約469万円 n=17
ほぼ変わらず	約487万円 n=17	別の訪問看護ST	約477万円 n=26
減った	約447万円 n=69	その他	約402万円 n=16

いずれも選択肢の幅の真ん中の値で計算した、およその平均です。同じ時期に働いている方どうしの比較で、同じ人を何年も追いかけた調査ではありません



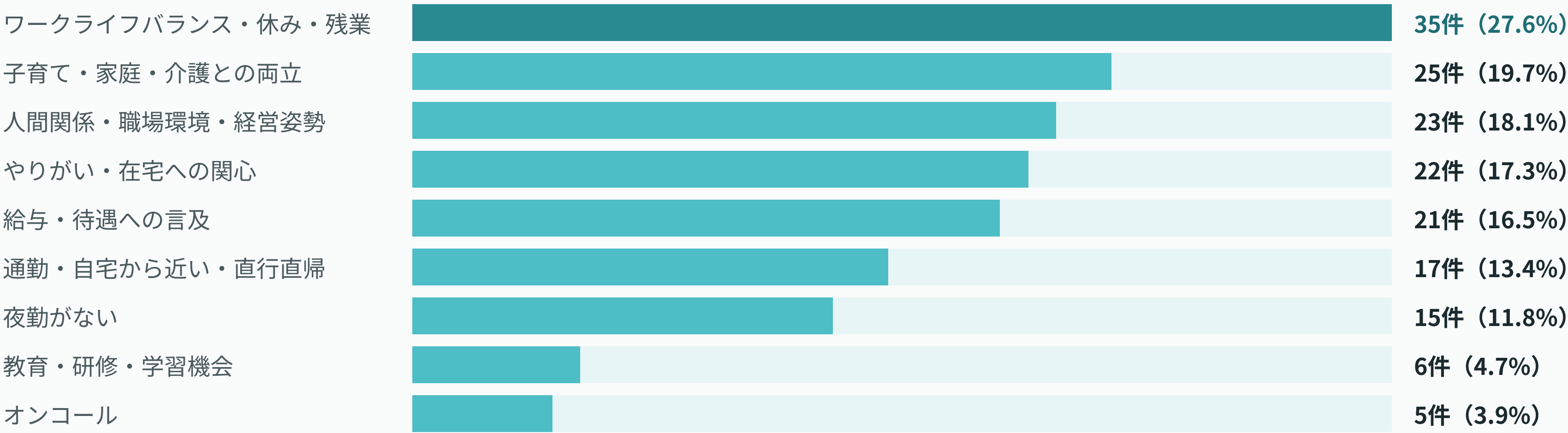
下がったのは入職時の数字であって、 今の年収ではない

「減った」と答えた人の現在の推計平均は約447万円。前職別に現在の年収を見ると、病院出身が約481万円、クリニック・外来出身が約469万円、別の訪問看護ステーション出身が約477万円で、ほとんど差がありません。同じ時期に働いている方どうしの比較なので追跡調査ではありませんが、入職時についた差が、その後も残り続けているようには見えません。

— 入職時の一度きりの数字で決めなくていいニャ。

では、何と引き換えたのか

「訪問看護を選んだ理由」を自由に書いていただいた127件を、内容ごとに分けました。報酬より上に来るのは、働き方と生活です。



1つのコメントが複数の内容にあてはまる場合があります (127件)

声 ① 働き方と時間

この章の声は、すべて入職時に「報酬が減った」と答えた方のものです。

「病院勤務に比べ、休日、土日の休みがほぼ確約されているのと、退社時間にきっちり終わること（ワークライフバランス）を重視した。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：5～10年未満／入職時の報酬：減った

「人間関係で心理的安全性が確保できそうか。年間休日がしっかりあり、プライベートと仕事のバランスが取れそうか。」

前の職場：別の訪問看護ステーション／訪問看護の経験：10年以上／入職時の報酬：減った

「子供の進学を機に、子育てとの両立のため残業の少ない訪問看護へ転職。給料やオンコールの日数を重視した。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：3～5年未満／入職時の報酬：減った

「働き方を変えたかった。オンコールや休みづらい職場は避けたい。長く居続けられるところがよい。」

前の職場：別の訪問看護ステーション／訪問看護の経験：10年以上／入職時の報酬：減った

「ライフワークバランス。子供の突発の熱や感染症、学校行事で休みが取れる職場に転職した。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：10年以上／入職時の報酬：減った

声 ② 家庭とライフイベント

「祖父の介護をしているときに、訪問看護に介入してもらいました。その時にとても助かり、自宅でもこのように工夫して生活出来るのだと知り興味をもったからです。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：5～10年未満／入職時の報酬：減った

「親の介護の関係で、なるべく家から近いところを探した。人間関係が良さそうなところ、規模が小さいところ、苦手な業務が少ないところ。」

前の職場：その他／訪問看護の経験：10年以上／入職時の報酬：減った

「他県からの転居で、医療法人から株式会社の訪看に転職しましたが、給料換算が『基本給』が少なく抑えられているため賞与でさらに低賃金になってしまう。厳しいです……」

前の職場：その他／訪問看護の経験：10年以上／入職時の報酬：減った

「常勤から半日パートへの変更を希望した際に、訪問看護への異動を打診されました。一人で判断出来るのだろうかという不安が大きかったです、半日だけでも働きやすく良かったです。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：10年以上／入職時の報酬：減った

3件目のように、待遇面の厳しさを訴える声も掲載しています。良い声だけを選んでいないことをお断りします。

声 ③ やりがいと専門性

「療養病床で退院支援に関わり、訪問看護に興味が出た。その後その療養病床が閉鎖になったタイミングで、訪問看護に転職した。」

前の職場：別の訪問看護ステーション／訪問看護の経験：3～5年未満／入職時の報酬：減った

「自宅での親の看取りをした経験があり、看護師としてのキャリアもある為、その経験を活かせると思ったから。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：3～5年未満／入職時の報酬：減った

「看護師として最終的に、在宅看護をしたかったから。人間関係も大事です。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：5～10年未満／入職時の報酬：減った

「一人一人にじっくり関わりたい。経営者の人柄も決め手になった。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：5～10年未満／入職時の報酬：減った

「大きな病院を離れると学習機会がかなり減ってしまうことが悩みであった。現在勤務している会社は受講したい研修の50～70％／月を勤務日に設定し、受講料や交通費が経費でおとせる。学習の機会を得ることを保証してくれるのが魅力。」

前の職場：病院／訪問看護の経験：1～3年未満／入職時の報酬：減った



引き換えたのは、 お金ではなく時間と暮らしたった

訪問看護を選んだ理由の上位は、ワークライフバランス・休み・残業が27.6%、子育て・家庭・介護との両立が19.7%、人間関係・職場環境が18.1%。給与・待遇への言及は16.5%で、上位ではありません。報酬が減った人が多いのは、報酬を最優先にしなかった結果でもあります。自由記述に並んでいたのも、あきらめた話より、何を優先したかの話でした。

— みんな、ちゃんと選んでるニャ。

転職前に重視することと、転職後に語られた理由

以前に当社が行った調査（転職を考えている看護師200人）では、ステーション選びで重視する点として76.1%が「給与の高さ」を挙げていました。今回、実際に転職した170人が自分の言葉で書いた理由では、給与・待遇の話は5番目です。

転職前・重視すること

前回調査「訪問看護への転職意向調査レポート」／転職を考えている看護師200人／あてはまるものを選ぶ形式・複数回答

ステーションの雰囲気、人間関係	78.9%
給与の高さ	76.1%
自分の経験が活かせること	63.3%
休日の取りやすさ	59.6%
働き方の柔軟性	57.8%

転職後・実際に語られた理由

今回の調査／自由に書いていただいた回答を分類／127件

ワークライフバランス・休み・残業	27.6%
子育て・家庭・介護との両立	19.7%
人間関係・職場環境・経営姿勢	18.1%
やりがい・在宅への関心	17.3%
給与・待遇への言及	16.5%

聞き方が違う（今回は選択肢から選ぶ形式、今回は自由に書いていただいた回答）ため、%どうしをそのまま比べることはできません。見ていただきたいのは順位の入れ替わりです。給与は、転職を考えている段階では上位に挙がり続けます。ところが実際に移った方が自分の言葉で語る決め手は、働き方と生活に移っています。報酬が減った方が半数いたのは、報酬をいちばんに置かなかった結果でもある、と読むことができます。

訪問看護を検討している方へ

転職を考えるときに確認しておきたいことを、本調査から3つにまとめました。

1 入職時の数字だけで判断しない

入職時に「減った」と答えた方の、いまの年収の推計平均は約447万円。前の職場ごとに見ても、病院出身 約481万円、クリニック・外来出身 約469万円、別の訪問看護ステーション出身 約477万円と、大きな差はありません。下がるとすれば、それは入職時の一度きりの数字です。

2 規模ではなく、経験の積み方と勤務地で見る

年収は事業所の規模ではほとんど変わりません（10名未満・10名以上とも推計平均 約471万円）。一方、経験10年以上では500万円以上が58.5%を占め、地域では関東 約508万円と九州沖縄 約375万円の差があります。規模の大小より、長く続けられる環境かどうかを見るほうが役に立ちます。

3 何と引き換えるのかを、見学の前に決めておく

実際に選ばれた理由の上位は、ワークライフバランス（27.6%）、子育て・介護との両立（19.7%）、人間関係（18.1%）でした。休日・オンコールの体制・直行直帰の可否・研修の費用負担は事業所ごとに大きく異なります。見学や面談の場で、この4点を具体的に確認しておく判断がぶれません。

まとめと、この調査の限界

まとめ

- 訪問看護の常勤年収は400～500万円台が中心で、経験を重ねるほど上がる
- 事業所の規模による差はほとんどなく、地域による差はある
- 入職時は半数が報酬減。ただし、いまの年収に前の職場による差はない
- 選ばれている理由は、働き方・家庭との両立・人間関係
- 転職を考える段階で重視される「給与」は、実際に移った方の語りでは5番目に下がる



訪問看護師をはじめとする在宅ケアに携わる方に向けた情報サイト

ns-pace.com

この調査の限界

- 答えてくださったのはNsPace会員の方で、全国の訪問看護師の平均ではありません
- 経験5年以上の方が58.2%、40～50代が中心のため、若手の実態は十分に反映されていません
- 回答が10人未満だった区分（訪問件数制・東北・20代・男女の比較）は載せていません
- 年収・時給は選択式で聞いているため、「推計平均」は選択肢の幅の真ん中の値で計算したおよその数字です
- 入職時に増えたか減ったかは、ご本人の記憶にもとづく回答です。同じ人を何年も追いかけた調査ではありません



訪問看護業界に特化した求人サイト

ns-pace-career.com